

史 村 納 さ よ 編 だ 69

恩納村歌

みなさん「恩納村歌」をご存知でしょうか。恩納村の公式行事で耳にすることが多いかもしれませんが、日頃からみなさんに親しんで頂けるよう、役場電

話の保留音も村歌メロディーを使用しています。時々「いつ頃できた歌なの？」と質問を受けます。とありますが、『恩納村誌』に歌詞や楽譜が掲載されているものの、残念ながら制定年が記されておりません。唯一の手掛かりは『恩納小学校百周年記念誌』の沿革史メモで、昭和17年の欄にわずかに「恩納村歌制定」と記されているだけです。よって、村歌が制定された経緯について詳し

いことはわかっておりませんが、作詞した當山正堅と、作曲した新城正一の人間関係から考察してみたいと思います。

先述の記念誌には儀部（旧姓花城）ハツ先生の「恩納校の思い出」という寄稿文がありました。「昭和18年4月沖縄県より、助教師としての辞令を拝命して事情も知らない恩納小学校へ赴任したのが、私の社会人としての第一歩でございました。（中略）「白砂青松連なりて…」と当山村長さんと声高らかに唄ったあの村歌」とあります。ハツ先生と一緒に恩納村歌を歌った当時の村長というのが、まぎれもなく作詞者の當山正堅です。

當山正堅は1886（明治19）年、現在の谷茶

区で生まれました。沖縄県師範学校を卒業し、若くして国頭村辺戸小学校の校長を務め、「戻る道」を開削するなど、教育行政や社会活動に大きく貢献しました。教師として県内各地で教鞭をとった後、1941（昭和16）年6月から1946（昭和21）年1月28日まで恩納村長を務めました（戦時中は一時中断）。村長退任後は、沖縄民政府の文化部長を務めるなど、沖縄の文化行政にも尽力した人物として有名です。

作曲者の新城正一は1908（明治41）年、名嘉真区で生まれました。沖縄県師範学校在学中に音楽家、宮良長包先生に出会い深い感銘を受け、東京武蔵野音楽学校へ進学します。卒業後には福

年	月	日	主なできごと	メモ
昭和十七	二月	二日	。大日本婦人会結成される	
	三月	十九日	。日本放送協会沖縄支局開設	
	四月	十五日	。満州開拓団先遣隊家族出発 （五月八日 第二・第三回家族呼寄せ満）	。満州開拓へ 伊波邦夫君の家族、荷馬車に荷物と家族で出発
	四月	十八日	。東京・名古屋・神戸等米国機初空襲	。流行歌
	五月		。代議士選挙（漢那・仲井間・伊礼・桃原・湧上当選）	佐伯孝夫 作詞
	五月	二十六日	。十四才以上女子学生を動員する	清水保雄 作曲
	六月	四日	。「国民動員実施計画」きまる	「湯島の白梅」
	六月		。ミッドウェイ海戦はじまる（日本軍敗北）	（湯島通れば 思い出す）
	八月	七日	。本県衣料切符制実施 。家庭用品の統合配給管制を実施 。米軍ガダルカナル上陸 。国鉄時間の呼称を二十四時間制とす	。恩納校歌制定 。恩納村歌制定

『恩納小学校百周年記念誌』沿革史（昭和17年の部分）



恩納村歌のレコード（1983年）